

令和4年度 福祉コミュニティエリア整備事業（生涯活躍のまち形成事業）  
地域再生協議会 会議概要

■ 日 時

令和5年3月27日（月）14時00分～15時00分

■ 場 所

函館市亀田交流プラザ3階 小会議室2

■ 内 容

1 開 会

2 議 事

○報告事項

(1) エリア内の介護保険施設の再開について

○協議事項

(1) 地域再生計画における令和3年度目標達成状況について

3 閉 会

■ 配付資料

資料1 福祉コミュニティエリア 介護保険施設等配置図

資料2 令和3年度 目標達成状況

資料3 居住者数に関する補足資料

資料4 多世代交流センターの利用状況

■ 出席委員（7名）

河原委員，氣田委員，齋藤委員，武田委員，平野委員，  
竹内氏（伊東委員代理），藤林氏（川村委員代理），伊藤氏（菊池委員代理）

■ 事務局職員

保健福祉部地域包括ケア推進課 小棚木課長，相澤主査

## ■ 会議録（要旨）

### 相澤主査（地域包括ケア推進課）

---

定刻となったので、ただいまから、令和4年度地域再生協議会を開催する。

なお、本日は伊東委員，川村委員，菊池委員が都合により欠席となっているが，創生会の竹内様，アルファコートの藤林様，渡島総合振興局の伊藤様に，それぞれ代理として出席いただいている。

また，桜井委員は都合により欠席である。

当協議会の開催にあたり，委員の皆様をご紹介させていただく。

（順番に委員を紹介）

それでは，これからの進行は，齋藤会長にお願いしたい。

### 齋藤会長

---

それでは，議事を進めさせていただく。報告事項の(1)「エリア内の介護保険施設の再開について」，事務局から説明願いたい。

### 相澤主査（地域包括ケア推進課）

---

それでは，お配りしていた資料1をご覧願いたい。

株式会社ハーモニーが運営していた介護保険施設3か所であるが，全て社会福祉法人 創生会が取得し，昨年より順次，運営を再開しているところである。

本日は，特養ベルソールの竹内施設長が出席されているので，詳しくは，竹内様に説明をお願いしたい。

### 竹内氏

---

まずは我々の法人の概要について説明させていただく。

社会福祉法人 創生会は福岡県に本部があり，九州を中心に全国的に介護施設を運営している。函館市内にもグループ会社の株式会社創生事業団が運営する介護事業所が9か所あり，グループ会社全体で約160か所の事業所を運営している。職員は約7,000人を雇用している。簡単ではあるが，法人としての説明は以上になる。

それでは，資料1について説明させていただく。

（資料1に基づき説明）

本日時点の入居者数について報告したい。まず，グッドケア日吉は定員18床中，17床が入居済みである。残る1床も入居予定者がいるので間もなく満床となる。グッドタイムホーム・日吉壺番館は定員29床中，10床が入居済みである。グッドタイムホーム・日吉壺番館は定員29床中，26床が入居済みであり，近々，満床となる見込みである。なお，特養ベルソールは定員100床中，82床が入所済みである。

また，（各施設の）職員については，満床になっても対応できるような体制を整えている。

我々、創生会では、再開した3施設のほか、特養ベルソーレや多世代交流センターの運営に努めている。市民と施設の利用者が自由に交流できるような場所をつくっていきたいと考えているので、皆様には今後ともご協力をお願いしたい。

私からの説明は以上になる。

#### 齋藤会長

---

事務局から説明があつたが、何か質問や確認したいことはあるか。

#### 河原委員

---

多世代交流センターについて。この施設は収益を上げにくい施設だと思うが、人員配置など運営の課題があれば教えていただきたい。

#### 竹内氏

---

センターの人員は4人を配置している。カフェ（RONTA）や貸しスペースによる収益はあるが、運営としてはギリギリであり、何とか黒字を確保するため、様々な企画をしているところである。大きなイベントとしては、4月にプロレスの試合が開催される予定であり、9月には創生会としてお祭りの催しをしようかと考えている。

#### 齋藤会長

---

氣田委員、ここまで、色々な経過があつたが、感想などお聞かせ願いたい。

#### 氣田委員

---

エリアの向かいにフットボールパークのサッカー場があり、私も土日にサッカーに行くのだが、人の往来が多く、このエリアがひとつのまちになっているなど感じている。

地域再生計画の当初の目的であつた、「子どもからご高齢の方まで、安心して暮らすことができるまち、誰もが生涯にわたって活躍できるまち」という姿に、少しずつ近付いてきたのではないかと感じている。

インフラとしては全て整つたので、今後、人が多くいらっしゃるということを含め、地域のコミュニティとして、いかに持続させて、エリアの活動を市全体に波及させていけるかが重要になってくると考えていることから、地域包括ケアシステムのモデル的なエリアとなるよう、市としても、引き続きエリアの皆様と協力してこれらの課題に取り組むので、今後ともよろしく申し上げます。

#### 齋藤会長

---

私も先日、エリアに行ってきたが、だいぶ家が建っていて、人や車の往来が多くなっており、エリア整備直後の面影はなくなっているため、次のフェーズに進むことができればと考えている。

焦る必要はないが、来年度、再来年度と時間がかかっても、先ほど氣田委員がおっしゃったように、新たに住まわれた方々だけでなく、子どもや障がいのある方、既存の住民の方々の繋がりも意識しながら、一体となった地域づくりを進めていただければと思う。

それでは、次の議事に移る。

協議事項の(1)「地域再生計画における令和3年度 目標達成状況について」、事務局から説明願いたい。

#### 相澤主査（地域包括ケア推進課）

---

それでは、私から説明させていただく。

（資料2～4について説明）

#### 齋藤会長

---

事務局から説明があったが、ご質問等ある方はいるか。

藤林さん、宅地が完売されたが、感想などあるか。

#### 藤林氏

---

私も久しぶりに現地を見て、宅地の販売を手掛けてくれた業者さんとも話したのだが、日吉インターチェンジ開通の効果か、未だに宅地の問い合わせがあるようで、今まで全く興味を示さなかった業者からも引き合いがあるとのことだった。

3つの介護施設が再開したということで、今日、創生会さんに案内いただいて現地を見て回ったが、子どもから年配の方まで幅広い年齢層の方が行き交い、駐車台数も増えており、今日は天気も良いので公園でくつろいでいる方がいるなど、整備直後とはだいぶ印象が変わったと感じている。

我々（アルファコート）は札幌市でもまちづくりをお手伝いさせていただいているが、まちににぎわいができる交通事故等のリスクが高まる傾向にあるので、交通安全等に気を配りながら、まちづくりを進めていただければと思う。

#### 齋藤会長

---

ありがとうございます。平野委員、どうぞ。

#### 平野委員

---

私どもの町会では、時々、センターの部屋を借りて役員会をやっているし、私自身はミスポの体操教室に週に1回、参加させていただいている。

今、お話があった交通量のことなのだが、インターチェンジができたことにより、交通量が増えており、交通安全に気を配ることは大切だと思う。昨日も古くなった交通安全の旗を3本ほど取り替えてきたが、かなりのスピードで走っていく車が見受けられる。

また、エリアの住宅街は大きく東側と西側に分かれており、3年ほど前から町会の勧誘に歩いているが、快く入ってくれる方、忙しいからと断る方、様々である。中には、班長を買って出してくれる積極的な女性の方もいた。西側の住宅街では、市と町会連合会を通じて「ぜひ入れてほしい」という方がいらっしゃったが、全体の加入者数としてはまだ少ない。

今は一時的に体の調子が芳しくないで勧誘活動を休んでいるが、（体が）元の調子に戻ったら、また活動を始めたい。

## 齋藤会長

---

ありがとうございます。武田委員はどうか。

## 武田委員

---

住宅が増えたのだが、コロナ禍であったこともあり、担当の民生・児童委員が訪問しづらく苦戦しているということがあった。

また、町会という面では、去年は一斉勧誘作戦を実施したところ、15軒ほどが加入した。交通量が増えたことについては私も同感で、危ないなと思うことがある。

## 齋藤会長

---

ありがとうございます。河原委員はどうか。エリアの基本構想の策定のときから関わっておられると思うが。

## 河原委員

---

エリアがこのような形になったことは、率直に嬉しく思う。多世代交流センターの3月のスケジュールを見たら既に埋まっていて、かつ、ミスポが入っている。ミスポは総合型地域スポーツクラブで、教育委員会に関係する団体であり、福祉サイドのコミュニティエリアと自然な連携ができていくということになる。

ミスポが入ることによって、多世代の健康づくりや運動習慣化プログラムが入ってくる。運動・スポーツなど楽しい場所であるけれども、家族としては悩みごとがあるときには相談できて、楽しいことも大変なことも、ここで解決できる機能が集約されているのではないかと思った。そういう事例を作っていくことができれば、本当に最新型というか、「ここに住んでいる方は健康になれるよ」というまちになるのかなと思った。今後、可能かどうかは分からないが、ミスポ等に参加しているエリア内の方が、参加していないエリア内の方と比べて健康なのか、要支援・要介護状態になる時期が遅れてきているのかという調査ができれば面白いなと考えている。

## 齋藤会長

---

ありがとうございます。私も、次のフェーズではエリア内の住民同士の互助体制づくりのようなものに、手をかけられたらいいなと思っている。

私はこのエリアを地域包括ケアの局所的なモデル地域というイメージで関わってきており、このエリアは（地域包括支援センターの圏域で言うと）包括ゆのかわさんの圏域になると思うが、第1層や第2層の生活支援コーディネーターと連携して実験的・先進的な取り組みをして事例を積み上げ、優良な事例を他の地域にも広げていくことができれば面白いなと考えている。エリアの本体施設が整ったならば、次のフェーズに期待したいなと。

氣田委員、センターの取り組み状況についてどのように感じているか。

## 氣田委員

---

コロナ禍で人と人との交流が難しい中、センターを利用されている方が多くなっている。特に、体操・運動・ダンスといった体を動かすメニューが多くなっている。市の保健福祉部

とすれば、市の健康増進の部門を担っている機関なので、自主的にこういった取組みに参加する方が増えているのは喜ばしいことと思っている。

先ほど、これからは地域のコミュニティを維持することが重要と申し上げたが、市としても、第1層生活支援コーディネーターを配置し、ボランティアの養成やマッチング、こういった地域の支え合いの推進に関する業務を、以前から実施している。そのコーディネーターの任務のひとつとして、昨年9月から、多世代交流センターとの連携を位置付けている。

今のところは、今後の展開に向けたイメージ合わせの段階だが、地域の方々と交えた運営企画会議の開催など、これからお互いに相乗効果が期待できる取組みができればと考えている。

### 齋藤会長

---

ありがとうございます。多世代交流センターの利用状況について、センターの広さと利用者数をどう評価したらよいか見えにくい方もいらっしゃると思うが、私は似たような施設を運営していたことがあって、その時は中学校の校舎を丸一つ使って、月間の利用者は1千人くらい。多いときで月間2～3千人なので、今の多世代交流センターの広さと利用者数の推移を見ると、かなり奮闘しているというか、いつもにぎわっているという印象である。

様々な世代の交流を含めた他機関との連携や、地域とのコミュニティづくりを期待できる段階になってきたなと考えている。

その他、皆様から何か意見等はあるか。

(なし)

それでは、全ての議事が終了したので、進行を事務局にお返しする。

### 相澤主査（地域包括ケア推進課）

---

齋藤会長、ありがとうございました。

それでは、本日の協議会を終了する。皆様、お疲れ様でした。